

Ⅲ. インサイト

「AUD-資源国通貨の代表格」

「ディーラーズ・マインド」で取り上げた NZD ドル繋がりという事で、その“兄貴分”でカナダドルと並び資源国通貨の代表格である豪ドルを見ていきましょう。

豪ドルと言えば、高金利通貨の一つとしてキャリートレードで利用する最も人気のある通貨、というのが一般的なイメージでしょうか。その人々を惹きつけてきた高金利は、年々切り下げられ続けていますが、「先進国の金利」という事で考えれば現在でも十分魅力のある対象ではないでしょうか。

豪州にとって日本は最大の輸出先の一つとして深い繋がりがありますが、実際、ここ日本でもトレードの対象として個人トレーダーや組織のディーラーに根強い人気があります。

その豪ドルを取引する上で極めて重要なファクターの一つとして「資源/コモディティ価格」が挙げられ、その動向に対して豪経済/ドルは敏感に反応します。

勿論、輸出の大部分を占めるのが資源という事は、その相手先の経済（中国、米国、日本など）の好不況やその動向を認識する必要はありますが、ここでは、豪州主体で考えてみたいと思います。

オーストラリアでまず思い浮かぶ資源/コモディティは何でしょうか。有名なところでは、鉄鉱石、金、石炭などの鉱物関連以外にも、小麦などの農産物が生産されていますね。

2014 年度の輸出品目構成を見てみましょう。

1. 鉱物・燃料 63.2%、2. 製造品 13.3%、3. 飲食品等（小麦、牛肉、チーズ等） 12.5%が上位3の構成となっており、ダントツの鉱物等では鉄鉱石、石炭が、そして飲食品では小麦がその大部分を占めています。

また視点を少し変えれば、世界2位（現在）の金の生産国としての顔も有しており、構成のパーセンテージに含まれないところで豪ドルとゴールドには強力な相関性があります。

それでは一つ例として、この中から鉄鉱石を取り上げて相関性を確認してみましょう。

鉄鉱石は、鉱山から採掘される鉄を含んだ鉱物で、鉄鋼の原料として使用されており、中国、ブラジル、オーストラリアが大きなシェアを占めています（レアルとの関係は別の機会に取り上げます。）

鉄鉱石先物という言葉が聞き慣れないのはごもっともで、世界有数の取引所となった大連取引所に上場された同先物市場は最大の取引量を誇るものの、ご存知の通り、現状は規制で海外勢には閉ざされたエリアである為、その膨大な取引量と比較して知名度はそこそこではないでしょうか。

ただ、近年になりシンガポール取引所（SGX）等で取引が活発化し始めており、今後の取引増加に期待が持てる市場です。（因みに、私も頻繁に当該市場への参加を御願ひされます。活性化のためですね。）

チャートを見てみましょう。ここでは、CME (NYMEX) データを利用します。

下図：AUDUSD と鉄鉱石先物（ITI2!）



コモディティが先行するというのが基本的な構造として、価格帯や経済情勢により鏡に映したような運動性を見せる期間もありますね。

先程述べた通り、豪ドルと密接に連動する資源/コモディティは他にも存在します。

重要なのは、その比較対象が、「マネーとしての顔を持つ金（ゴールド）」か、「根元から深い結びつきがあるものの関連性が複雑な原油」か、または「純粋なコモディティである鉄鉱石や小麦といったモノなの」かによって、取るべき戦略も期間もタイミングも変化してくるのではないのでしょうか。

大切なのは、豪ドルを取引する上で資源の動向が最も必要なファクターの一つであるという事実で、今後も、この「インサイト」ではシリーズとして情勢の変化や今後の展望についてアップデートしていきます。

—このレポートに関しまして—

当レポートの著作権はすべてバーグインベスト株式会社（Burginvest Co.,Ltd.）に帰属し、「ゴールド・オイル・通貨の取引を学ぶコミュニティ」外への転載および無断引用は固くお断り致します。

また当レポートは、会員個人のみが閲覧いただけ、法人内・コミュニティ外での回覧・シェアは固くお断りしております。（後日、回覧人数分の料金を申し受けます）。無断の転載などを見つけた場合、著作権者までご連絡ください。

また、このレポートは、市場の研究とその情報の提供を目的としたものです。投資方針や時期選択等の最終判断はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、バーグインベスト株式会社は一切の責任を負いかねますことをご了承願います。ご理解をいただきまして、ありがとうございます。